

AGRI WORK POINT

アグリ ワーク ポイント



水田の冬季作業

農業経営支援課 渡辺彰人

冬季は水稻の栽培期間ではありませんが、翌春からの水稻栽培の準備期間として貴重な時期です。雑草、ガス害、ジャンボタニシ対策や土づくりなど、前作の問題点があれば早めに対処しましょう。

冬季耕運

稲わらや残り株をそのまま放置していると、田植え後にガスが発生し、生育不良の原因になることがあります。冬季のうちに耕運して土に混和し、冬から春にかけて分解を進めておくことで、ガス害の予防になります。

また、冬季のほ場の地表には、多年生雑草や害虫の卵などが残っており、耕運することによってそれらを地中に埋めたり寒風にさらしたりすることで枯死、殺虫することができます。

厳寒期に硬く締まった乾田を耕運することは、ジャンボタニシの駆除を行うことにもなります。トラクターの走行速度は遅く、ロータリーの回転は速くして土を細かく砕くことが重要です。

ケイ酸資材の種類と使い分け

水稻はケイ酸を多く必要とする作物です。ケイ酸資材を施用する際は土壌診断結果を活用し、足りない成分を補える資材を選びましょう。

- ・ケイ酸加里プレミアム 34 60 kg / 10 a
 - ・とれ太郎 80 kg / 10 a
 - ・リン酸6%・苦土12%・石灰40%を含みます。苦土が不足しているほ場におすすぬ。
 - ・オイスターミネラル 100 kg / 10 a
- 有機石灰セル力が入っており、ミネラルを多く含みます。微量要素が不足しているほ場におすすぬ。